

「2025年大阪・関西万博」に中小企業が期待すること

2025年に地元大阪で、1970年の大阪万博以来55年ぶりとなる国際博覧会（万博）が開催されます。テーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」として希望のあふれる未来を描く展示・出展がなされ、想定来場者は2,820万人、経済波及効果を約2兆円という試算もあり、地元大阪を元気にするだけでなく、日本の魅力を世界に発信する機会ともなります。

大阪信用金庫は大阪商工会議所と共同事業体として、大阪パビリオンに出展することが決定しており、地元大阪を盛り上げていく方針です。

そこで、大阪・関西万博に中小企業が期待することをアンケート調査として実施しました。

調 査 要 項

調査時点	2023年3月上旬
調査対象	当金庫お取引先1,691社(大阪府内ならびに尼崎市)
回答企業	672 社
回答率	39.7%
調査方法	調査票郵送による調査、Web回答

アンケート企業の内訳

業種別 従業員別	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	サービス業	運輸業	不動産業	計	構成比	累計 構成比
1～4人	37	30	42	5	32	18	2	50	216	32.1%	32.1%
5～10人	58	20	10	3	42	14	5	15	167	24.9%	57.0%
11～20人	61	16	4	3	21	9	6	4	124	18.5%	75.4%
21～30人	21	7	2	1	7	6	10	0	54	8.0%	83.5%
31～50人	17	4	2	1	2	8	6	3	43	6.4%	89.9%
51～100人	10	4	2	1	4	10	6	3	40	6.0%	95.8%
101～	8	4	2	0	1	5	3	1	24	3.6%	99.4%
無回答	0	0	2	0	1	1	0	0	4	0.6%	100.0%
計	212	85	66	14	110	71	38	76	672	100.0%	
構成比	31.5%	12.6%	9.8%	2.1%	16.4%	10.6%	5.7%	11.3%	100.0%		

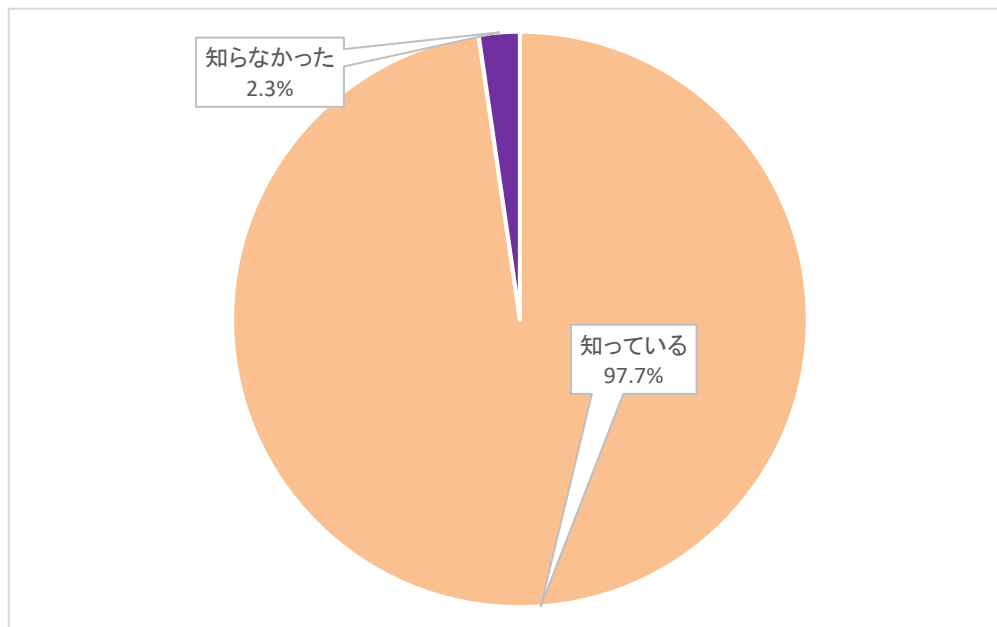
Q1 2025年に「大阪・関西万博」が地元大阪で開催されることを知っていますか？

N=665

回答 単純回答

●高い認知度「知っている」97.7%

2025年4月13日の開催まで約2年に近づく中、公的機関による機運醸成活動やマスコミでの報道もあって大阪・関西万博が地元大阪で開催されることは広く周知されています。



業種別

単位:%

	知っている	知らなかった
全体	97.7	2.3
製造業	97.6	2.4
卸売業	97.6	2.4
小売業	96.9	3.1
飲食業	100.0	0.0
建設業	98.2	1.8
サービス業	98.6	1.4
運輸業	100.0	0.0
不動産業	96.0	4.0

従業員数別

単位:%

	知っている	知らなかった
全体	97.7	2.3
4人以下	96.2	3.8
5～10人	98.2	1.8
11～20人	99.2	0.8
21～30人	100.0	0.0
31～50人	95.3	4.7
51～100人	97.5	2.5
101人以上	100.0	0.0

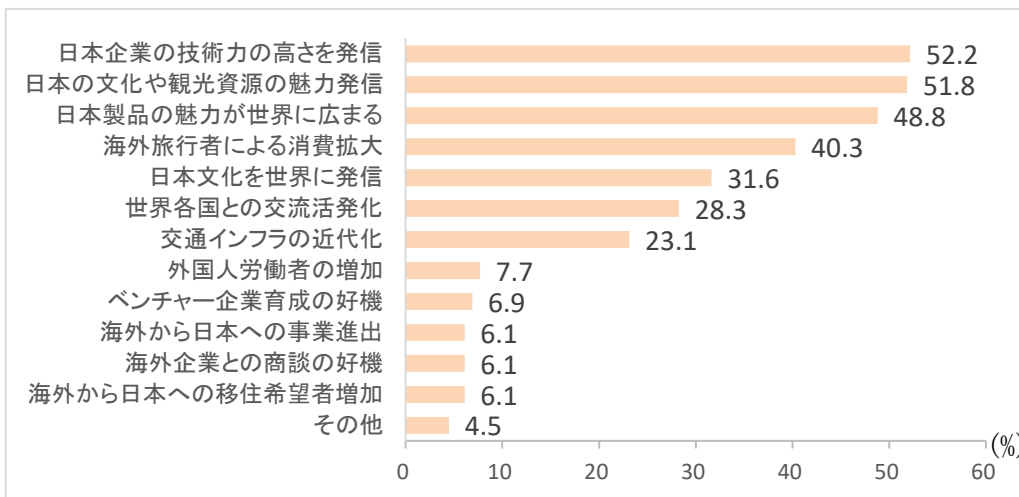
Q2 大阪・関西万博の効果で期待しているものをお答えください

N=623
回答 複数回答

●日本企業の技術力を示す機会となるか

第一位「日本企業の技術力の高さを発信」52.2%、第二位「日本の文化や観光資源の魅力発信」51.8%、第三位「日本製品の魅力が世界に広がる」48.8%が上位に位置しています。

上位項目はいずれも日本の価値や文化的な魅力を世界に知ってもらうことで、万博終了後に日本製品や観光客により賑わいが創出されることへの期待の高さが窺えます。



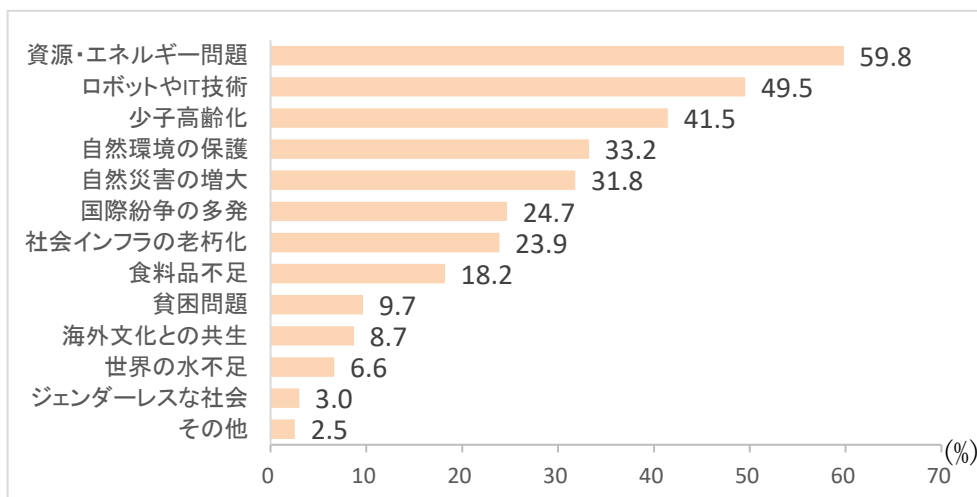
Q3 大阪・関西万博では、様々な課題を解決する技術や生活をより豊かにする製品の展示もされます。貴社が関心を持っている分野をお答えください。

N=632
回答 複数回答

●エネルギー問題やロボット・IT技術が高い関心を集める

第一位「資源・エネルギー問題」59.8%、第二位「ロボットやIT技術」49.5%、第三位「少子高齢化」41.5%が上位に位置しました。

ガソリン価格や電気料金の高騰に苦戦を強いられる中、エネルギー問題が第一位となりました。世界的に脱炭素へ舵を切る動きの中、関心も高まっているようです。



Q4 貴社は「大阪・関西万博」への出展を考えますか？

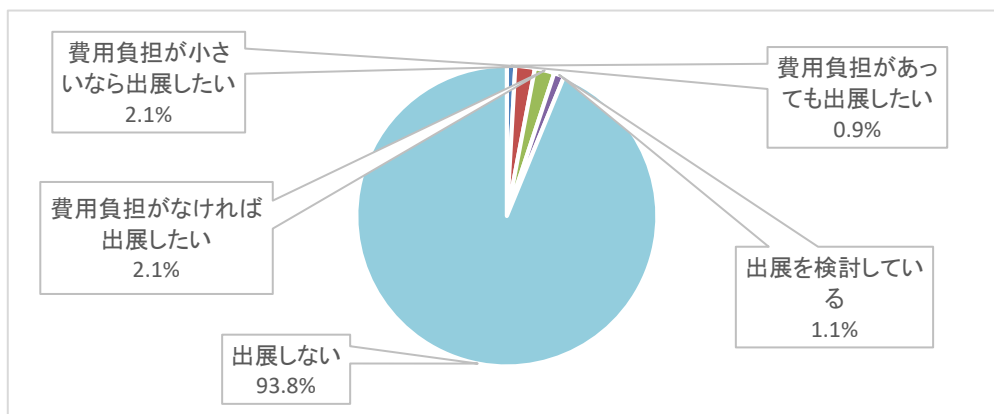
N=654
回答 単純回答

●中小企業にも出展・展示の道は開かれている

「費用負担があっても出展したい」0.9%、「費用負担が小さいなら出展したい」2.1%、「費用負担がなければ出展したい」2.1%、「出展を検討している」1.1%と6.2%が自社の出展・展示に関心を持つ結果となりました。

一方で、中小企業にとって万博は、自社からは遠い存在と考えているのか「出展しない」93.8%となりました。

出展検討企業では、「当社は部品製造なので製品完成は難しい」といった声も聞かれ、製品・試作品としての展示出展が困難となる点などが心理的な壁となっているようです。

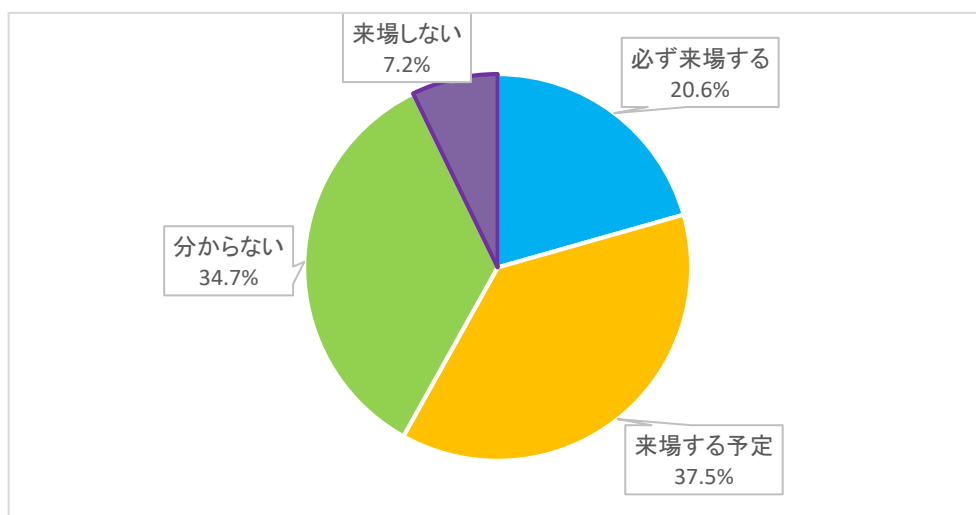


Q5 大阪・関西万博に来場したいですか？

N=649
回答 単純回答

●約2年先にも関わらず6割弱が「来場する」

「必ず来場する」20.6%、「来場する予定」37.5%と58.1%が来場すると回答、大阪・関西万博の情報が少ないにも関わらず6割弱が来場するというのは期待が高いのではと思われます。「分からない」34.7%という回答もありますが、万博情報が伝わっていくうちに来場してみたいという企業も増加するでしょう。「来場しない」7.2%という回答もあり、関心を持っていない企業もあるようです。



Q6 大阪・関西万博閉会後の夢洲の活用について、いいなと思うものをお答えください

N=604

回答 複数回答

●「健康・医療の研究開発施設」への活用が有効か

第一位は「健康・医療の研究開発施設」42.4%、第二位には「IT技術の発信基地」39.2%、第三に「統合型リゾート施設（IR）」38.2%が上位に位置しました。

大阪・関西万博のテーマとして、「いのち輝く未来社会のデザイン」と定めており、サブテーマも「いのちを救う」「いのちに力を与える」「いのちをつなぐ」となっており、「健康・医療の研究開発施設」がテーマに合致すると考えた企業が多いようです。

また、XR・VR技術の目覚ましい進展も大阪・関西万博を彩る要素となるため「IT技術の発信基地」としての活用も有効な選択肢といえるでしょう。

